

○予算、収支計画、資金計画どおりに事業が執行されているか。  
執行状況と残高内容、当期損益と欠損状況は適正か。

◀一般業務勘定▶

（予算及び決算）

収入における予算額と決算額の差、約 15 百万円は、施設整備費の入札差額による精算額の減額によるものである。

支出における予算額と決算額の差、約 263 百万円は、入札差額等の経費節約、人事交流等による給与差額によるものである。

なお、収入と支出の差、約 248 百万円は、23 年度運営費交付金債務となっている。

（収支計画及び実績）

【費用の部】

＜計画と実績の差、約 364 百万円＞

- ▼ 業務経費、人件費及び一般管理費約 250 百万円の減額
- ▼ 固定資産取得による資産振替約 115 百万円の減額
- ▼ 減価償却費約 8 百万円の減額
- ▼ 受託業務の約 1 百万円の増額
- ▼ 施設整備費の費用化等による約 8 百万円の増額

【収益の部】

＜計画と実績の差、約 363 百万円＞

- ▼ 運営費交付金収益の約 363 百万円の減額
- ▼ 資産見返負債戻入の約 8 百万円の減額
- ▼ 受託業務の約 2 百万円の増額
- ▼ 施設整備費収益及び臨時利益による約 5 百万円の増額
- ★ 費用と収益の差、約 1 百万円は当期総利益である。

（資金計画と実績）

○ 資金支出・資金収入とも計画との差が約 20 百万円が減額となっているが、これは施設整備費補助金約 71 百万円（予算額）が未収金となったことによる減額、前年繰越金が約 50 百万円増額、受託業務費が約 2 百万円増額したことが主な要因である。

## ≪貸付業務勘定≫

(予算及び決算)

業務経費の節約、借入金利息の減少、及び貸倒引当金繰入予算の不使用等により貸付業務関係経費で約 28 百万円、一般管理費及び人件費で約 9 百万円の縮減となり、合計で約 37 百万円の支出の減額となった。

(収支計画及び実績)

収益では、貸付金利息収入が予算に対して、約 1 百万円減少となった。これは、貸付金残高の減少によるものである。貸付業務勘定は、収支差を国から補助されているため、当期利益はゼロとなっている。なお、補助金約 38 百万円が不用となり、国庫に返還することとしている。

(資金計画と実績)

○資金支出

「業務活動による支出」で約 503 百万円減少しているが、これは、貸付枠 1, 400 百万円に対して貸付実行額が約 892 百万円にとどまったことが主な要因である。

「財務活動による支出」で約 750 百万円減少しているが、これは、借入金の返済額が減少したことによるものである。

○資金収入

「業務活動による収入」は、予算に対して 137 百万円増加しているが、これは繰上返済が 115 百万円あったことが主な要因である。

「財務活動による収入」は、約 1, 430 百万円減少となったが、これは、貸付実行額の減少に伴い、長期及び短期の新規借入額を抑制したことによるものである。

○次年度への繰越金

計画に対して、約 137 百万円の増加となったが、これは当該年度貸付決定済みで未実行(74 百万円)となっている貸付金、補助金の国庫返還金約 38 百万円等の支出に備えるために必要となったものである。